

健康スコアリングについて

2018年7月11日
厚生労働省保険局保険課

健康スコアリングレポートの概要

ポイント

■ スコアリングレポートの概要

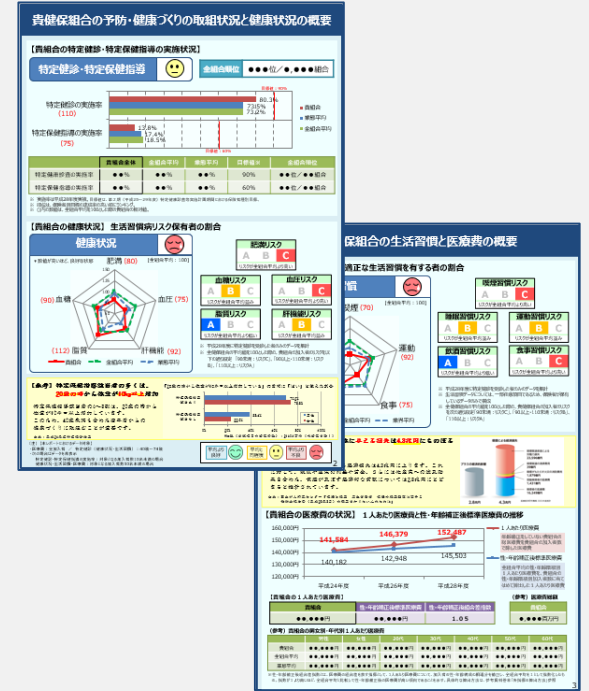
- 各健保組合の加入者の健康状態や医療費、予防・健康づくりへの取組状況等について、**全健保組合平均や業態平均と比較したデータ**を見える化。
- 2018年度は、**厚労省・経産省・日本健康会議の三者が連携し**、NDBデータから保険者単位のレポートを作成の上、**全健保組合及び国家公務員共済組合に対して通知**。
(健保組合：約1,400組合、国家公務員共済組合：20組合)
- 2020年度には、**企業単位のレポート作成**を目指す。

■ スコアリングレポートの活用方法

- 経営者に対し、保険者が自らのデータヘルス分析と併せて、スコアリングレポートの説明を行い、従業員等の健康状況について現状認識を持ってもらうことを想定。
- その上で、企業と保険者が問題意識を共有し、**経営者のトップダウンによるコラボヘルス※の取組の活性化**を図る。
- レポートと併せて、企業・保険者の担当者向けに、経営者への説明のポイント等、レポートの見方や活用方法等を示した実践的な「**活用ガイドライン**」を送付。

※コラボヘルス：企業と保険者が連携し、一体となって予防・健康づくりに取り組むこと

【スコアリングレポートのイメージ】



<今後の予定>

- 8月下旬：「日本健康会議2018」にて、WGの取組報告
- 8月末頃：保険者を通じて健康スコアリングレポートを通知

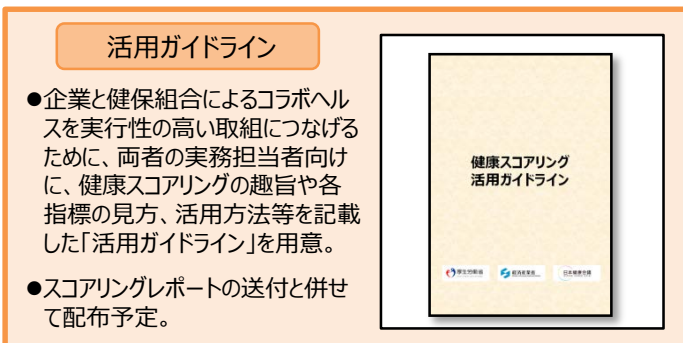
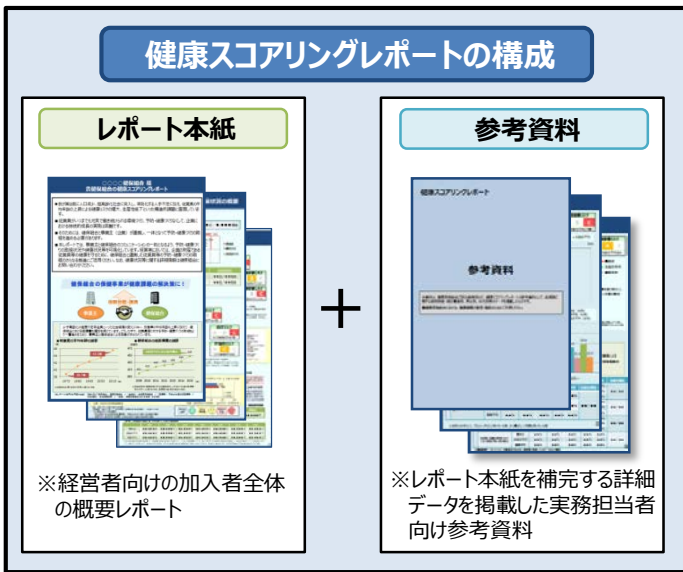
<本格稼働に向けたスケジュール>

2018年度	2019年度	2020年度
	<ul style="list-style-type: none"> NDBデータ※を活用して各健保組合ごとのスコアリングレポートを作成・送付 企業単位レポート作成のシステム仕様検討・作成 	企業単位のレポート作成

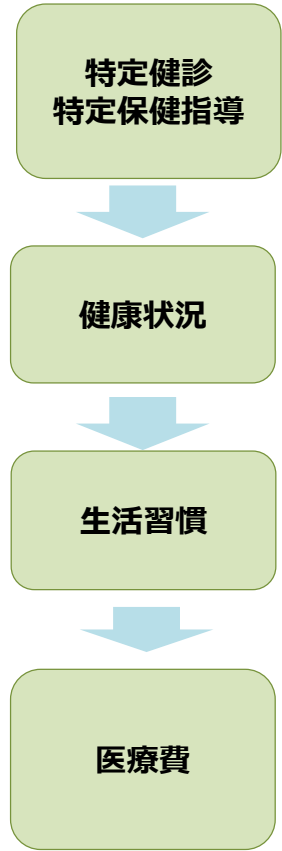
※NDBデータ：レセプト（診療報酬明細書）及び特定健診等のデータ

健康スコアリングレポートの構成と項目

- スコアリングレポートは、**レポート本紙**と**参考資料**の2部構成。この他に、レポートの見方や活用方法等を示した実践的な**活用ガイドライン**を用意。
 - ・ レポート本紙：特定健康診査・特定保健指導の実施率、健康状況、生活習慣、医療費について、自健保組合の加入者全体のデータ（スコア）を全健保組合平均・業態平均との比較で表示。
 - ・ 参考資料：レポート本紙の各指標について、被保険者・被扶養者別、男女別、年代別のデータ等を参考データとして表示。



<指標の構成>



<指標の見方>

- ▶ 全ての保険者の法定義務である特定健診・特定保健指導の実施率について、全国平均や業態平均と比較した自健保組合の実施状況や、保険者種別ごとの実施率目標の達成状況（全組合における順位）を確認する。
- ▶ 特定健診結果から、将来の生活習慣病罹患等につながる恐れがある、肥満や血圧、血糖等のリスク保有者割合について、全国平均や業態平均と比較した立ち位置を確認する。
- ▶ 特定健診の問診結果から、健康状況の悪化要因となっている可能性がある喫煙や食事、運動等の生活習慣の適正者割合について、全国平均や業態平均と比較した立ち位置を確認する。
- ▶ 医療費について、全健保組合の中での位置づけや経年変化を確認する。
 ▶ ただし、医療費だけで個別具体的な健康課題を判断することは困難なため、健康状況や生活習慣の状況と医療費の実態を照らしつつ、より詳細な分析を行うことにより個別具体的な健康課題を明確化することが必要。

※健康状況・生活習慣のレーダーチャートの数値は、全国平均値を100とした場合の、自組合加入者の相対的な立ち位置を示すものであり、平均値を上回れば必ずしも生活習慣病リスクがないということではないことに留意が必要
 ※全国平均値は、健保組合の場合、全健保組合の平均値

健康スコアリングレポートの活用について

- スコアリングレポートは、企業と健保組合が現状を共有し、両者の連携による取組（コラボヘルス）を推進する上での最初のステップとなる**コミュニケーションツール**。
- **最も重要なことは、データ分析結果から、具体的なアクションにつなげること。**
- スコアリングレポートを起点に、問題意識の共有を図り、課題解決に向けた推進体制の構築、役割分担による対策の実行、そして取組の評価・改善につなげる。

<スコアリングレポート活用方法の全体像>

